

社会科 学習指導案

日時 平成20年11月10日(月)6校時
学級 3年3組(男子14名 女子15名 計29名)
場所 3年3組教室
授業者 廣田 秀樹

1 単元名 第4章 わたしたちの暮らしと経済 「2 市場経済と金融」

2 単元について

(1) 教材観

本単元は、学習指導要領の第2章 第2節 公民的分野の大項目(2)「国民生活と経済」の中の中項目「ア わたしたちの生活と経済」に含まれる内容である。この単元では、「身近な消費生活を中心に経済活動の意義を理解させるとともに、価格の働きに着目させて市場経済の基本的な考え方について理解させる」ことや、「現代の生産の仕組みのあらましや金融の働きについて理解させるとともに、社会における企業の役割と社会的責任、市場に委ねることが難しい諸問題に対しての国や地方公共団体の果たす役割について考えさせる」こと、またその際、「社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について、諸法とその精神を関連づけて考えさせる」ことをねらいとしている。

本単元における基礎・基本は、「経済活動に対する関心を高め、それを意欲的に追求し、経済活動について考えようとしている(関心・意欲・態度)」「個人や企業の経済活動の在り方について様々な立場から考察し、公正に判断する(思考・判断)」「経済活動に関する様々な資料を収集し、学習に役立つ情報を活用する(技能・表現)」「市場経済の基本的な考え方、金融の働きについて理解する(知識・理解)」ととらえる。

この教材の内容に関わる多くの事柄が、テレビ等のニュースや新聞等において、日本の経済に関する諸問題として毎日報道されている。生徒たちは、日常的にこれらの情報に接しているという特性を持つ。このことは、本単元のねらいである「現代の生産のあらましや金融の働きについて理解させる」ことに適していると考え設定した。

(2) 生徒観

今年度実施した学習定着度状況調査結果を見ると、「資料活用の技能・表現の領域」は全国比102で上回っているものの、「社会事象についての知識・理解」の領域は全国比91、そして全領域では全国比97で下回っている。社会科の目標を達成するために、社会事象について自らの考えを構築するための知識・理解の定着が必要である。

思考・判断を必要とする学習や資料を探したり、資料から読み取ったりについては苦手意識があり、授業中の発言も明らかに減少する。グループ学習等でも自分の考えを言えずに終わる生徒もいる。また、学習したことを自ら自分なりの文章で適切にまとめることを苦手とし、周囲に頼りがちな面がある。定期テストの結果からは、単元テストとの類似問題は正答率が高いが、応用問題や記述式の問題となると正答率が低下する。

生徒の意識を探ってみると、社会科の授業に意欲的に臨んでいる生徒がいる一方で、「覚えるのが面倒」「読むのが嫌い」「語句の意味がよくわからない」「難しい」等の理由から、意欲をもてずに授業に臨んでいる生徒もいる。また、意欲的に臨んでいる生徒の中にも歴史は好きだが地理や公民は苦手だとする生徒もいる。さらに、現代社会の豊かな恵まれた環境と様々な情報に囲まれた社会生活をしていながら、経済の特色についての興味関心や知識は断片的で、経済活動が自分の住む社会生活と密接に関わっていることを実感できないでいる。

(3) 指導観

本単元では経済活動の意義と市場経済の基本的な考え方、金融の働きと企業の働き・責任をグループ学習や仮説体験等を通して考えさせたり、まとめ発表させたりすること等を経る中で思考力・表現力を育てたい。また、網羅的で高度な扱いにならないよう配慮するとともに、身近で日常生活と接点のある具体的な事例資料の提示を工夫して、どの生徒にも興味・関心を喚起するとともにそれをもとにして、自分のおかれている社会環境や事象に気づき考えさせる指導をしたい。

内容の定着のために、新しく学習用語の音読や小テスト、授業のまとめ方、課題学習を授業と関連させた取り組みせ方等により、基礎・基本の定着を図りたい。

特に、金融の働きについては、家計の貯蓄などが企業の生産活動や生活の賃金として円滑に循

環するために、金融機関が仲立ちしていることを具体例を挙げて取り扱い、金融は自分たちの生活に欠かせないことに気づかせたい。

3 単元の見目標

- (1) 身近な調査活動やシミュレーション、討論といった課題学習に関心を持って取り組み、消費者としての経済活動への関わり方や市場経済に関する諸問題を意欲的に学習できる（関心・意欲・態度）
- (2) 具体的で身近な事例から学習を進展させ、社会との関わりについて客観的にとらえ直し、経済・経済上の諸問題について考察することができる（社会的な思考・判断）
- (3) 統計や図、新聞など様々な資料を読み取ったり、収集、選択した資料を基にわかりやすくまとめ、表現したりする学習を通して、日本の財政と現代社会の特色をとらえることができる（資料活用の技能・表現）
- (4) 身近な消費生活を通して、経済活動が様々な条件の中での選択を通して行われている市場経済の基本的な考え方について理解し、説明することができる（社会事象についての知識・理解）

4 単元の指導計画と評価規準（第2節 「市場経済と金融」）

時	指導目標	評価規準			
		関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
1	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな資料を基に商品の価格のきまり方を考え、経済についての関心を深める。 ・市場経済の基本的な考え方について、身近で具体的な事例を通して理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近で具体的な事例を通して、商品の価格のきまり方を考え、経済について関心を持ち取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな資料から商品の価格の変化の有無とその理由、需要と供給の関係を多面的、多角的に考察できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真資料と作成したグラフから気づいたことをまとめ発表できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・企業や個人の生産、消費といった市場経済の仕組みや価格のきまり方、影響について理解できる。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・価格がシグナルの役割をしていることを理解させる。 ・独占価格影響や公共料金が設けられている理由を考えさせる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・独占価格の影響や公共料金が設けられている理由を多面的、多角的に考えることができる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・価格には人的、物的資源を効率よく配分するシグナルの役割があることを理解できる。
3 本時	<ul style="list-style-type: none"> ・金融の働きと役割を、銀行の利用を通して理解させる。 ・銀行についての聞き取り調査を行い、学習に対する興味関心を持たせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・銀行の利用といった身近な事例を通して金融の働きと役割について興味関心を持つことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・貸付金利を預金金利よりも大きくすることで銀行が利潤を得ていることに気づき私企業の側面を持つことを指摘できる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・金融機関が家庭生活や企業活動の中で仲立ちをしていることを理解できる。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・労働条件を改善するために労働組合や様々な法律があることを理解させる。 ・日本人の企業経営や職業観に対する考え方が変化してきたことを資料から読み取るとともに、職業や仕事に対する関心を持たせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の読み取りや意見交換を通して、職業や仕事に対する関心を持ったり、働く意味を考えたりして、自己の生き方や将来の進路を考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・労働における諸問題を、消費者、生産者、労働者など様々な立場から公正に判断できる。 		

5 本時の計画

(1) 指導目標

- ア 銀行の利用といった身近な事例を通して、金融の働きと役割について興味・関心を持つことができる。
- イ 貸付利子と預金利子の差額から銀行が利潤を得ていることに気づき、私企業の側面を持つことを指摘できる。
- ウ 金融機関が家庭生活や企業活動の中で仲立ちしていることを理解できる。

(2) 指導の構想

- ア 銀行についての聞き取り結果やアンケート、写真資料等の使用。

日常生活において目にはしているものの、普段あまり意識していない資料を活用し、自分たちの生活との関わりに気づかせることで学習に意欲を持たせる。

- イ 小テストやプリントを使用しての基本事項の定着。

金融に関わる重要語句も多い。家庭における課題学習でも前もって予習させておくが、小テストやプリントの使用によって整理し、経済用語の理解の定着を図りたい。

- ウ 意見交流

銀行の仕事内容を、儲けとそうでないものを班ごとに話し合わせながら分類する作業を通して予想したり整理したりする力を育て、以後の学習につなげたい。

(3) 具体の評価規準

	具体の評価規準		C (努力を要する生徒への手立て)
	A (十分満足できる)	B (概ね満足できる)	
関心 ・意欲 ・態度	・銀行の利用といった身近な事例を通して、金融の役割と働きの学習に日常生活を想起しながら参加している。	・銀行の利用といった身近な事例を通して、金融の役割と働きの学習に参加している。	・自分たちの生活との関わりに気づかせながら、学習に意欲を持たせる。
思考 ・判断	・貸付金利を預金金利よりも大きくすることで銀行が利潤を得ていることに気づき、私企業の側面があることを指摘できる。	・貸付金利を預金金利より大きくすることで銀行が利潤を得ていることに気づく。	・資料や板書を具体的にわかりやすく説明することで気づかせる。
知識 ・理解	・金融機関が家庭生活や企業活動の中で仲立ちしていることを理解し、貯蓄などが企業の生産活動等に活用されていることを説明できる。	・金融機関が家庭生活や企業活動の中で仲立ちしていることを理解している。	・金融、預金利子、貸付利子、中央銀行、公定歩合等の重要語句を繰り返し確認させる。

(4) 本時の展開

	学習内容	学習活動	指導上の留意事項	評価の観点 (方法)
導入 10分	○ 既習事項の確認	・前時の学習内容を確認する。		
	1 学習課題の設定	・銀行の通帳から課題を考える (お金を預けている・利子の受け取り)	・銀行の通帳を取り上げ、「お金を預け、利子をもたらっている」ことを確認し、銀行はどのようにして利潤を得ているか疑問を持たせる。	【関心・意欲・態度】 ・日常生活を想起しながら銀行の預金通帳から気づいたことを指摘できたか (観察・挙手・発言)
学習課題：銀行はどのようにして儲けているのだろうか。				
展開 30分	2 課題解決の予想	・銀行の仕事内容を儲けをもとに班ごとに分類し予想する (儲け・儲けでない・間違い)	・話し合いが進まない班には、日常生活を想起するよう促す。	【関心・意欲・態度】 ・活動に参加しているか (観察)
	3 学習課題の追究	・銀行が儲けを得るためにどのような仕事をしているか調べる (お金を貸す・手数料) ・預金利子と貸付利子の関係を資料から考え確かめる (儲けの多くは差額から生まれる)	・利潤が生まれる仕組みが必ずあることを意識させながら考えさせる。	【知識・理解】 ・銀行の利潤が貸付利子と手数料であることを理解できたか (挙手・発言) 【思考・判断】 ・銀行の利潤のもとをつかめたか (観察・ノート・挙手)
	4 学習課題の解決	・銀行の役割を考える (家庭生活・企業活動の仲立ち)	・利潤を追求しない銀行の存在役割は何か考えさせる。	【知識・理解】 ・日本銀行の役割を指摘できたか (指名発言・挙手)
終結	5 まとめ	・本時のまとめをする	・学習プリントにまとめ、発表させる。	
<ul style="list-style-type: none"> ・銀行の儲けの多くは、預金利子と貸付利子との差額から得られる。 ・銀行は家庭生活、企業活動の仲立ちをしている。 ・日本銀行は、中央銀行として景気の安定を図る。 				
10分	○ 次時の予告	・「働く人たちの生活向上」のところを学習する。		